

Title	OUKA News Letter : 第4号
Author(s)	大阪大学附属図書館 電子コンテンツ担当
Citation	OUKA News Letter. 2020, 4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77273
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

OUKA News Letter

第4号 2020.10

OUKAニュース

大阪大学が「大阪大学オープンアクセス方針」を採択 教職員の研究成果の公開を推進

大阪大学は、研究成果を国内外に広く還元するとともに、大学の知的資源を広く社会に発信することを目的として、2020年4月17日に「大阪大学オープンアクセス方針」を策定しました。

この方針は、学術雑誌に掲載された大阪大学の教職員の研究成果を、学術機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫(OUKA)」又は著者が選択するその他の方法によって可能な限り公開することを定めたものです。



方針の全文は図書館Webサイトにて公開中です。 OUKAへの研究成果登録申請方法についても、同じページにまとめています。

■大阪大学オープンアクセス方針(大阪大学附属図書館)

https://www.library.osaka-u.ac.jp/openaccesspolicy/



また、オープンアクセスの概要や大阪大学におけるオープンアクセス支援事業 に関する情報を下記のページにまとめています。

■オープンアクセス(大阪大学附属図書館)

https://www.library.osaka-u.ac.jp/openaccess/

1月開催のオープンアクセスセミナーの模様を 大阪大学CLEにて公開

前号で取り上げた2020年1月24日開催のセミナー「学術論文発表を取り巻く最新動向」(共催:大阪大学附属図書館・経営企画オフィス研究支援部門・研究推進本部)の動画を、大阪大学CLE(授業支援システム)にてご覧いただけるようになりました。

オープンアクセスが学術論文発表の在り方や研究業績評価に与える影響について、有識者にご解説いただきました。この機会にぜひご覧ください。





英語論文執筆及びオープンアクセスに関するオンラインセミナー セミナー2:学術論文発表を取り巻く最新動向 オープンアクセスの現在

http://osku.jp/h0446 [要認証]

特集記事

Switching-ON OU+OA

このコーナーでは、大阪大学で研究活動に携わる皆様にオープンアクセス関連情報を お届けいたします。

特別企画:

OUKAコンテンツ70000件突破記念インタビュー

OUKAは2007年2月の正式公開から順調にコンテンツ数を伸ばしてきましたが、2020年3月に70000件を突破しました。これを記念し、70000件目のコンテンツが収録された『年報人間科学』の編集委員である人間科学研究科の村上靖彦教授にお話を伺いました。

一『年報人間科学』とは、どのような雑誌でしょうか?

人間科学研究科の中でも、社会学・人間学系というグループがありまして、そちらの発行する紀要ですね。論文の掲載のほかには研究ノートや書評欄を設けていまして、主に大学院生か大学院を出た方たちの寄稿の場所を提供する、というのが現在の目的になっていますね。

先生自身の研究分野あるいは研究テーマについてお教えてください。

僕自身はもともと哲学の研究者で、現在は現象学というジャンルなのですが、現象学の技法を使って質的研究を行うというのが今の僕の研究です。具体的には、医療現場と福祉現場をフィールドワークしていまして、ここ10年は看護師と児童福祉の現場を調査しています。

哲学を専攻される方がフィールドワークを されるのですね。

母数がそもそも少ないですけれども、増えてきていると思います。特に阪大では文学研究科の臨床哲学の方たちがいて、現場に出るタイプの哲学研究者が集まっていた場所ですね。僕はテキスト研究だけではやりたいことができなかったから医療現場に入るようになったのです。やはり、従来のテキスト研究では、歴史的な文献の細かい記述になると思うのですが、今僕らが生きている社会との接点が見えにくいですよね。そこに不満があったので、だんだんと現場に出るようになりました。試行錯誤しながら、自分の論文スタイルを探しているところです。



村上先生略歴

専門は現象学、現象学的な質的研究。基礎精神病理学・精神分析学博士(パリ第7大学)。2015年より現職。著書に『摘便とお花見:看護の語りの現象学』『在宅無限大:訪問看護師がみた生と死』(いずれも医学書院)、『仙人と妄想デートする:看護の現象学と自由の哲学』(人文書院)など。

一では、先生の研究を発表する場についてお 伺いしたいと思います。

今はもう国内だと、ほぼ依頼原稿なので、投稿の招待をいただいて、という形になります。 査読付きに出すのは、海外の英文ジャーナルに ごくまれにありますね。

人文系だと、査読付きというのは若手の方が投稿して業績にしていく、という形が多いのですね。そうした論文は近年、オープンアクセスの流れがありますが、先生の実感はいかがでしょうか。

大前提として、理系の世界の査読や論文形式 がマジョリティになっていて、その基準で議論 をされてしまうが故に、僕みたいな人文系の人

間にとっては、ズレがあるのですよね。いろい ろ前提が違うなと。そもそも、理系の場合、 ElsevierにしてもSpringerにしても、お金を 払って(読む)という形ですが、文系の場合は 英米の一部を除いて、マジョリティではないで すね。国内においては、学会誌というのは、会 員にとって自由にアクセス可能なものです。そ れか、完全にオープンにされているところも多 いんです。

別の流れで考えると、今まで紙で作ってきた 学会誌がオンラインに移行しつつありますよね。 文系のジャーナルもオンライン化するように なって。そうなったときに、結果としてオープ ンアクセスになった、紙だったものをオンライ ン化して自由に閲覧できるようにしたことで、 オープンアクセスのジャーナルになった。その 経緯は理系のような、高い金を払って読む、と いう議論とは関係ないところで、そのような流 れに結果的になったということですね。

- オープン・共有と言えば、先生はResearch Gateを使っておられますね。

公開しても問題がないデータについてはアッ プして、多くの方に触れるようにしたいと思っ ています。 僕にとって二つ目的があって、一 つは、学生に資料として読んでもらう時に、指 示をする場合があります。あともうひとつは、 外国の方が読んでくださるケースが結構多いた めです。

― 論文のオープン化とともに、研究データの オープン化を含む「オープンサイエンスト という流れが出てきています。フィールド ワークでのインタビューのデータも研究 データに当たるかと思うのですが、先生の 場合は研究データをどのように整理・保 存・共有しておられるのでしょうか。

それは倫理審査の問題で、非常に厳しく管理 しなければいけないですね。完全に匿名化して USBに鍵をかけてという形で管理します。オー プンとは全く逆ですね。統計をされる先生方で

すと、第三者機関や、ある場所にストックして データベース化をされている先生もいらっしゃ いますが。だから、研究のやり方に深く関わっ ていますね。そういう情報の共有っていうテー マと倫理の問題は板挟みなのだろうなと感じま すね。

最後になりますが、図書館に期待している ことはありますか?

長時間開館して、学生の利便性も高くなって きているかと思います。中もきれいに改装され て、ゼミなんかもできるようにされていて…。 この10年間で変わってきたなと思いますね。 ある意味欧米に近づいているような印象は受け ていました。学生にとって図書館って、より勉 強しやすい環境を提供するのが一番大事だろう なと思うので。そういう意味ではすごく充実し てきていると思っています。なので、今の方向 はすごくいいと思っています。



インタビューを終えて

先生のご研究に関するお話に始まり、人文学 分野におけるオープンアクセスについての状況 やお考え、研究データの管理など多岐に渡って 研究者としての率直なご意見をお聞きすること ができました。村上先生、お忙しいなか、貴重 なお話をありがとうございました。

2020年7月1日 WebExによるオンラインインタビュー (聞き手: 附属図書館 電子コンテンツ担当 三木)

『年報人間科学』は創刊号(1980年)から最新の41号までOUKAで公開中です。 また、村上先生が携わっている「臨床実践の現象学会」の学会誌『臨床実践の 現象学』も公開中です。



附属図書館・電子コンテンツ担当からのお知らせ

あなたの論文を、OUKAで公開しませんか?

OUKAで論文を公開すると、世界中の読者が無料でアクセスできます。

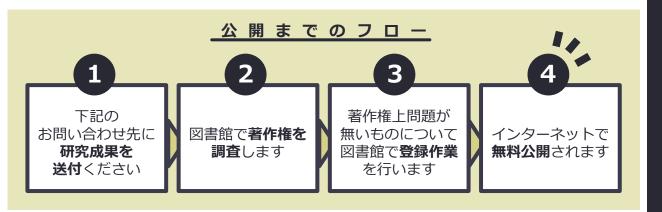
著作権調査など、公開にあたり必要な作業は図書館で行います。 コンテンツ公開のご依頼やお問い合わせ、ご相談など、まずはお気軽に 附属図書館・電子コンテンツ担当までご連絡ください。



OUKAちゃん

OUKAに登録するメリット

- (1) 研究成果の可視性・知名度の向上につながる
- (2) 研究成果が無料で永続的に維持・管理される
- (3) 冊子体が無くともボーンデジタルコンテンツとして研究成果を公開できる



登録の条件

研究成果を登録できる方

- (1) 本学に在職し、又は在職した役員及び教職員。
- (2) 本学大学院(博士前期課程及び修士課程を除く。)に在学し、又は在学した大学院生。
- (3) 第1号に掲げる者を構成員に含む団体。
- (4) その他、附属図書館長が適当と認めた者。

登録することができる研究成果の種類

学術雑誌論文、博士論文、紀要論文、研究成果報告書、図書、会議発表用資料、教材、 本学所蔵の学術情報資料

その他、附属図書館長が適当と認めたもの

お問い合わせ先

附属図書館・電子コンテンツ担当 ouka@library.osaka-u.ac.jp



〒560-0043 豊中市待兼山町1-4

企画・編集 大阪大学附属図書館 電子コンテンツ担当

電話: 06-6850-5071 FAX:06-6850-5052